

国際文化観光・学研都市・平城遷都1300年記念事業推進対策特別委員会記録

開催日時 平成23年2月22日(火) 13:03～15:45

開催場所 第1委員会室

出席委員 9名

神田加津代 委員長

中村 昭 副委員長

大国 正博 委員

中野 雅史 委員

奥山 博康 委員

粒谷 友示 委員

岩城 明 委員

藤本 昭広 委員

田中美智子 委員

欠席委員 なし

出席理事者 影山 地域振興部長

廣野 文化観光局長兼平城遷都1300年記念事業推進局長

上田 まちづくり推進局長

松本 交通部長 ほか、関係職員

参考人 田中(社)平城遷都1300年記念事業協会事務局副局長

(総務・運営統括及び広報観客・宮跡事業担当次長事務取扱)、

中芝(社)平城遷都1300年記念事業協会事務局次長

(交通・安全・会場サービス担当)

中山(社)平城遷都1300年記念事業協会事務局次長

(県内・広域事業担当)

傍聴者 なし

議 事

(1) 2月定例県議会提出予定議案等について

(2) その他

<質疑応答>

○神田委員長 それでは、ただいまの説明、報告、またはその他の事項も含めて質疑があ

ればご発言願います。

○粒谷委員 この委員会も特別委員会ですので、関西文化学術研究都市はこれで大体終わると思うので、最後に2点だけお伺いしたいと思います。

1点は、平成6年に基本協定書を結んで、この高山地区第2工区について事業をするための予算を毎年とってこられました。考えますと、17年間のこの予算を積み上げますと相当な金額が積み上げられたと思うのです。数億円、あるいはまた10数億円になろうかと思えます。ところが、この事業は結局中止になった。そうすれば、この責任は一体何なのか、この事業ができなかった最大の理由というのは何なのか、これは当然総括しなければいけないと思うのです。このような大きなプロジェクトをするときに、生駒市、あるいはまたURと、こうしてリンクしてそれぞれの信義でやるわけですけれども、奈良県のこんなに大きなプロジェクトも、当然国と県とか国と市町村とこうしてプロジェクトをやるときに、結果が悪ければ仕方がないということは、県の貴重な税金を使ってこのままでは放置できない、県として、この総括をどうなされるのか、まず1点お伺いしたい。

それと同時に、この跡地をどうするのか。これは田中（美）委員もそうですけれども、ここをこのまま放置することはできない。そうすれば今現在、地権者が土地区画整理事業を進めようとしているけれども実際それができるのかどうか、県としても、用途変更をして市街化区域に編入した責任も、県だけではありません、生駒市もそうですけれども、責任あるかと思うのです。この点についてもこのまま傍観者であってはならないと思えますけれども、この2点についてお伺いをしたいと思います。

○影山地域振興部長 ただいま地域づくり支援課で関西文化学術研究都市を担当しておりますグループがあります。今度の組織改正で地域政策課に関西文化学術研究都市を担当するセクションを引き続き置くこととなります。高山地区第2工区につきましてのポテンシャルについては十分認識した上でUR、それから生駒市に対して提案をさせていただいて、2年間の協議をした上で正式な提案を昨年9月に議会にご報告させていただいて、経緯は今さら申すまでもありませんが、生駒市から条件がついたということで提案の撤回、それから検討の中止をしてまいりましたけれども、あの地域につきましては高山地区第1工区と、それから西木津との結束点での地域であるということの位置づけというのは十分認識しておるつもりでございますので、私どもといたしましては2年間、三者で検討をしてまいりました経緯もございまして、一定の蓄積的なものも持っておるとも考えておりますので、生駒市、それからURとともに情報交換をしながらこれからも、大々的に検討会と

いうものではないのですけれども、それぞれ三者が地域に関する何か情報交換をしながら、あるいは情報収集をしながら進めてまいりたいと考えておるところでございます。ですから、粒谷委員おっしゃるように、私としましてはこれで検討を中止したという、事務的にはつもりではなしに、相談があれば積極的にご相談にも乗らせてもいただきますし、地権者の方、あるいは生駒市にもそういうつもりでこれからも対応していきたいと思っているのです。以上でございます。

○粒谷委員 影山地域振興部長、事前にこういう話をしていなかったのが大変申しわけないのですけれども、今の影山地域振興部長の答弁を聞いていて、この10何年間、県は一体幾らお金を使ったのか、それが結局は中止になってしまった、この県民に対する説明をしっかりとしなければいけないと思うのです。この原因はどこにあったのか、社会経済情勢の変化で当然できなかったというのもわかります、首長がかわったからできなかったというのもわかります。それぞれの信義が保たれなかったということもわかります。ただ、県の立場でものを言うならば、これだけ税金がむだになったのです、見通しが甘いと言わざるを得ないのです、ある意味では。

そうすると、本来ですとこのような三者間のものであれば法的な責任をどこにどう求めるのかということも当然出てくるのです。民間企業だったら当然そうなります。民間企業だったら当然こういう大きなプロジェクトを失敗したらだれかが責任を負うのです。今、影山地域振興部長の答弁のように、いや、これからよく協議しますというのは、悪いですが、けれども詭弁です、はっきり言って。そんなのやるのだったら、これを総括する協議会をつくるとか、目に見えた形というのがないでしょう。ただ今、影山地域振興部長は、唐突に申し上げたから申しわけないのだけれども、ほんとうにその気があるのですか。

○影山地域振興部長 昨年の11月以降も、定期的とは言えませんが、生駒市の担当者、それからURの担当者ともこれからの考え方については、意見が違うところもございますし認識の違うところもございますので、そういう事務的な話をしながら、お互いに情報収集を続けていこうということは1カ月に一度、2ヶ月に一度ぐらい会ってそういう話はしているところです。

○粒谷委員 あのね、世間話をするのと違います。これだけの大きなお金を投入してできなかった事業です、国家プロジェクトです。これが、中止をせざるを得なくなった理由というのはあるでしょう。生駒市は何て言っているのですか、生駒市は県が中止をしたという言い方をしています、違いますか。生駒市はやろうとしていたと、しかしながら知事が

10月20日に中止を決定したと、生駒市が提案をした4つの条件が、無理かもわからないけれども、協議会でご審議なさると思ったのに県が中止をしたという見方です。そうしたら、私の立場だったら当然生駒市に強い抗議を公文書で申し入れます。今のように、いや、これからじわっとお話ししますというような世間話をするような話とは違うでしょう。例えば、もう早急に県と生駒市とURの三者が協議会でこれ、お互いにどこに原因があったのか、どこに反省点を持つのか、この税金がむだにならないように次のステップに、例えば違うほかの事業にでも生かせるような形でやるべきだと思うのです。そんな、今、影山地域振興部長のようないいかげんな答弁だったら、いや、地権者から相談があれば相談に乗りますと、そんな簡単にできますか、土地区画整理事業が、800人以上の地権者がいらっしやるのに。しかも、この後じまい、敗戦処理、県が中心になってやらなければいけないのと違いますか。もっと見える形で答弁できませんか。

○影山地域振興部長 現在のところ、確かに県が提案をして、それを取り下げた、それと中身につきましても、首都圏の大学の誘致であるとか県立医科大学の誘致がもともと県の提案の中に入っていたというような誤解も実際のところあると思います。それは経緯を申すというののもあれですけども。

○粒谷委員 経緯はよろしいです。今後どうするかという話だけを教えてください。

○影山地域振興部長 今のところ生駒市、URにつきましても具体的な案をもっておるわけではなく、県も案を検討しましたがけれども、結果的にはそれを取り下げるという経緯に至りましたので。

○粒谷委員 ちょっと誤解されている。結果は、経緯ではないのです。今後、この敗戦処理をどうするか、県民に対して、これだけの多額の税金を使ったのではないですか、これはある意味では、こんなに社会経済情勢が変化するとは思っていなかった、それはやむを得ない部分もあると思うのです。ましてや首長がかわった、だから県としても本来の信頼関係、信義関係がなくなってしまうというのも県の責任ではないのです。しかしながら、少なくとも県がこれだけの多額の税金を消費したのではないですか、結果は中止になったのでしょうか。今、どうこう言われるけれども、実際は中止なのです、これは。前向いていないでしょう。そうなれば、この総括をしっかりとしないと、ほかのこれからいろんな事業をやるときに、こういう失敗もある意味では糧になる場合もあると思うのです。そういう意味で要望しておきます、もうこんなの言っても仕方がないので、影山地域振興部長、一遍この総括を生駒市とURとも踏まえて、事業を再開しろとかどうとかではないのです、要

するに県としても何が大きな反省だったのか、ある意味では行政間同士信義関係で来たけれども。しかしながら、信義関係が損なわれた場合の損害賠償を含めた法的拘束力はどうかということも反省だと思うのです。今まではお互いに信義で来ているのです、行政間同士。それが裏切られた場合、県としても当然その損失を補てんしていただくことはあり得る話をこれからの事業の中でも認識を持たないといけないということを言っているだけのことなのです。ですので、一度見える形で総括してください、それでその総括したものをまた我々にもお示しいただきたいと思います。要望で終わっておきます。

○影山地域振興部長 今、申し上げたかったのは、あの地域をどうするかについては、これからも考えていきたいということをご質問にお答えをしたかったわけです。それも踏まえて、その点について検討させていただきます。

○大国委員 この委員会でも平城遷都1300年祭等の審議を続けてきまして、平城宮跡等へ行ってみますと随分今は原状回復工事が行われておりまして、何かあの賑わいが随分前のような気もいたしておりますし、一つ一つもとに戻るのは当然ですけれども、本当に次につながればいいという思いで平城宮跡を見せていただいているところでもございます。

さて、この平城遷都1300年祭等で使用いたしました中町の駐車場ですけれども、ほとんど今のシーズンは使われていなくて非常に閑散とした状況が続いております。周辺の皆さん、また多くの県民の方々からも、一体今後どうなるのだろうというお声と同時に、有効に活用されないとむだ遣いになりませんかという率直なご意見もいただいているところでございます。本当にそういった意味では、当初あの中町の土地を購入される際には、将来、住民の皆さんと十分協議した上で道の駅等も含めて協議をされると認識をしておりました。ことしになって協議がまた再開されると聞いておりましたけれども、奈良市、あるいは地元住民の皆さんとの協議内容が今どのように進んでいるのか、1点お尋ねしたいと思います。

もう一つは、あの駐車場に設置されておりました、簡易型ETCみたいなゲートをつかってポイントを付与していたという取り組みがあったと思います。その状況はいかがだったのか、また今後、まだ実験で行われていると聞いていますけれども、どのようにされるのかということをお尋ねしたいと思います。

最後に、今ご説明いただきました資料「平成23年2月定例県議会提出予定議案」の11ページ、自転車観光推進事業について廣野文化観光局長から説明がありました。また21ページには交通安全施設整備事業で、自転車道の自転車利用促進事業ということでご説

明がありました。この点につきましては大事なことだし、ぜひともしっかりと進めていただきたいと思いますけれども、しかしながら、例えば自転車道、随分危険箇所があるように思いますし、夕方から夜にかけて走られる方も含めて随分暗い、走ってられるようなものではないという感じを3日前に通って受けました。この点、促進されることは非常に重要でございますけれども、安全対策の面で取り組んでいく予定はあるかどうか、特に暗さ等の問題が指摘されておりますので、その点についてお考えがあればご答弁お願いしたいと思います。

○林道路建設課長 平城遷都1300年祭終了後の中町駐車場のことでお答えいたしたいと思います。

まず、平成23年度ですけれども、平成22年の平城遷都1300年祭でいろいろ交通対策に対する知見が得られました。社会実験という形でやったのですけれども、これを踏まえまして春、秋の観光シーズンにおける奈良中心市街地での渋滞対策としてパークアンドバスライドを来年度も中町駐車場を活用する形で取り組みたいと思います。

その一方で、本来の目的でいろんな利用のことを申し上げましたけれども、まず道の駅的な整備ということで、まだ道の駅という形では正確には決まっておりますけれども、奈良市とともにできるだけ早く整備にかかりたいと考えておりまして、これも先ほど委員から出てきましたけれども、既に設立しております奈良市や地元などで構成します中町拠点整備推進協議会を活用いたしまして、平成23年度には基本計画を取りまとめたいと考えております。この中では、今申し上げました道の駅的な整備もありますけれども、後段にご質問されておりましたけれども、自転車利用につきましても拠点施設のような構想も取り入れていきたいと考えております。

それから、現在の地元調整の状況でございますけれども、まず地元の方にはこの協議会でいろんなことを話し合うということになっているので、先ほど申し上げました平城遷都1300年祭のときの交通対策の総括を申し上げまして、これで理解をいただいた上で次のステップに行きたいと、まずはその説明をいたしたいと考えております。

それから、ETC割引等は道路・交通環境課長からお答えさせていただきます。

○東道路・交通環境課長 ETCポイントの話と、あと、自転車の安全対策について2点ご質問がございました。

まず、ETCポイントのことでございますが、平城遷都1300年祭とあわせまして、阪神高速道路と連携をし、そのETCポイントの付与でありますとか、また観光情報のメ

ール配信といったことを行いますとくどくパーキング・奈良というサービスを実施いたしました。結果、約900台を超える方がこのサービスを利用し中町駐車場を利用されたという形になっておりますし、また、そのアンケートの結果を見ますと会員の約7割の方がこのサービスを利用して中町駐車場を利用されたと伺っております。来年度以降につきましては、当面ETCポイントではなくて、まずその観光情報のメール配信ということを中心にやりたいと思っておりますのでございます。

あともう1点、自転車の安全対策についてでございます。ご指摘のとおり自転車利用促進計画を策定し、その自転車の利用を一層高めていこうという中で安全対策は大変重要な課題だと認識をしております。そういう中で、まずはその案内の注意喚起サインでありますとか危険な交差点の改良等に着手しようと思っておりましたけれども、ご指摘のとおり、照度の足りない区間もあるというご指摘でございますので、よくそういうところも含めて点検をしていきたいと思っております。以上でございます。

○**大国委員** 中町駐車場、当然春・秋のパークアンドバスライドに使う、これはもうそのとおりだと思います。ただ、使っていない期間が余りにも長過ぎるということもありまして、このまま県民の皆さんはその中身がわからないので放置されているのではないかという思いもされているところでもございます。高額な県民の税金を使っている以上、もう少しスピードを上げて次の段階に移ることが望ましいのかと思っております。難しい課題はたくさんあると思います。なかなか奈良市との歩調が合わないところもあるようにも聞いておりますし、随分そのことについて見通しも含めてしっかりと計算されていると思っておりますので、このことについて、もうこれ以上聞きませんけれども、しっかりと協議をスピード感を持って進めていただいて、次の土地利用をしっかりと計画をお願いしたいと思います。

また、2点目のポイントの問題につきましては、今お話がありました。来年は観光情報を中心にとということでございましたが、第二阪奈有料道路にETCが設置されて、台数が平城遷都1300年祭もあってふえていると思っております。しかしながら、依然として高い通行料金という感覚が多くの方々から聞こえてまいるところでありまして、ぜひとも、ポイントをもうそこには付与しないということであれば、今後も含めて第二阪奈有料道路の割り引き等のこともご検討いただければと思っておりますので、その点、要望をしておきたいと思っております。

最後の自転車道の安全につきましては、今答弁いただきましたけれども、先ほど申し上げ

げましたけれども、もう日が落ちそうになった頃から随分安全が確保できない状況があるのではないかと思うぐらいの、やはり川沿いですし、随分危険な箇所もあろうかと思えます。最低限進めるということと安全対策というのは両輪の取り組み方とっておりますので、ぜひとも詳細に点検をしていただいて、やるのであれば安全に推進をするということをお願いしたいと思います。推進はするは、こんなの危険で行けないということになれば、県民の皆さんにとっても首をかしげられる場面があろうかと思えますので、その点しっかりと取り組みをお願いしたいと思います。以上でございます。

○田中（美）委員 それでは、数点質問させていただきます。

まず1点目ですが、先ほどご説明いただきました「平成23年2月定例県議会提出予定議案」の3ページ、未来のトップアーティスト育成支援事業というのが新規事業として示されましたけれども、この事業を進めていくようになった経緯も含めまして、もう少し詳しく説明をいただきたいと思えます。それが1点目。

次に5ページ、東アジアとの連携に関する問題ですが、弥勒プロジェクトの推進ということで、平城京レポートの提案を受けて日本と東アジアの未来づくりに貢献し得る云々と書いてありまして、弥勒プロジェクトの運営実施計画を策定して推進していくということですが、この平城京レポート、これは私たち議員はまだ受け取っておりません。私自身もこのレポートをぜひ欲しい、よく読んでみたいと申し上げましたら、新聞でも問題になりましたが、記載の誤りであるとか誤字脱字を直してから渡そうということですが、この提案を受けてと言われても、この提案自身がどういう提案なのかということを議員として検討することもできないわけです、ないのですから。これを示されても無理があるとまず1つ思えます。いつ、この誤字脱字とか記載の誤りが正されたものが私たちの手元に届くのか、議会中の検討ができる時間帯に届くのかどうかということをまずお聞きしたいと思います。

それからもう一つは、間違いはだれにもあると、私なども間違ったりします。というふうにどうも考えられないぐらいの多さです。記載誤り、記載不十分は47カ所、誤字脱字は37カ所ということですから、これはきっと何かちょっとうっかりしたということではない原因があったのではないかと思います。その点につきましては、県としてはこういうふうになったことをどのように考えておられるのかお聞きしたいですし、どうしてこういうことになったのか、これからどういう対応をしていこうとしているのか、考えも含めましてお示しいただきたいと思えます。

それから、この平城京レポートですけれども、日本と東アジアの未来を考える委員会がレポートを出したということです。ある委員に聞きましたら、レポートということで発表するその日にレポートを渡されて、ちょっと説明をして、これでということだったということです。約300ページのレポートでございます。しかも日本と東アジアの未来を考えていくというわけですから壮大なテーマでもあるわけです。そういうことにつきましては、案の段階で委員の皆さんに示されて、そして検討されて出されたものと思っておりましたらどうもそうではないと、どういうやり方をされたのかもお聞きしたいと思います。それで、手元に私たちがいただけたときに、それを県民の目線で見ると、そこに記述上の問題があるということになった場合、訂正をしようということになるのでしょうか、その扱いはどうなるのかお聞きしておきたいと思います。

それから、東アジアとの関係で、「平成23年2月定例県議会提出予定議案」の5ページの（仮称）東アジアジャーナル発行事業、これもまた日本と東アジアの現状・課題・将来性などを定期的に発信する、これもなかなか難しいことです。随分、研究も検討も調査も要るのではないかと思います。これはどういうやり方で発行していこうとしているのか、またその情報誌というのはどこに役立ててもらおうと、どこが必要だということで発行するに至ったのか、県が責任を持って県がその作業をするのか、それともどこかに委託するのか、委託するということであれば具体的にどんなところなのかということもお示しいただきたいと思います。

次、平城宮跡の利活用にかかわって質問します。

ページに従っていきます。11ページ、平城京歴史館運営事業、それから平城宮跡内イベント展開事業、これを合わせまして4億6,460万円使うということになっております。まず、そのイベントのことですけれども、春季、平城遷都祭、これは具体的に、今までは奈良市の関係でやってきた事業で、それを県としてここへ出すということは協働してやろうということなのかもしれませんが、その辺の合意はできているのか、どういう形でのくらの期間やるのか、それから、燈花会も実行委員会の皆さんが奈良公園のあたりでやっておられます、随分皆さんボランティアで頑張っておられます。夏、そういう方たちにも協力いただきながらやろうということになっていった場合、これはなかなかご苦労いただくことになるし、また、ああいう場所で燈花会というのをずっとやっていくということはふさわしいのかどうかという検討も必要かと思いますが、そういうことはどう検討されてきたのか、それから秋の古代行事ということにつきましても、実際にどのような検

討をされてどのようなものをやろうとしているのか、このお祭りの遷都祭の際には時代考証をされてきたのでしょうか、どのようにされてきたのか、それから古代行事についても何に基づいてその古代行事というものを設定していくのかということについてもお示しただきたいと思います。

つまり、なぜそのようなことを聞くかということ、平城宮跡の扱い、これからどうしていくのかということについては国営公園化ということで、その活用のあり方も含めまして計画が示されてきていると思うのです。なのに県は平城遷都1300年祭が終わって、今とにかく賑わいをなくしたくないからと、思っているいろいろな行事をしようということですが、十分にあそこの扱いについてどうするのかということ、落ちついて検討してやっていないと、平城宮跡のほんまものという、地下の埋蔵物が値打ちで世界遺産になったと、3割の発掘、これから発掘されてくる、そこからいろいろ学ぶものがあるということなどの値打ち、それを本当に光らせていくということが主にならないということになるのではないかと思いますので聞かせていただきたいと思います。

それから、国営公園化の問題ですが、国営公園化としての事業はどの程度進められているのでしょうか。そして公園の供用開始はいつぐらいになると、どのような形で、多段階的ということで前も聞きましたけれども、改めてそれを伺いたいと思います。土木部の事業としてトイレとか駐車場とか休憩所とか、この本格的な公園の整備が行われるまでの間やるということで、これもたしか4億円くらいの予算です。知事は以前、あそこは国営公園化していくから国がお金を出していくと、奈良県としてお金を出すということとはしなくてもちゃんと整備をしてもらえと言っておりました。国のお金でも県のお金でも、県民とかそれぞれの世帯から出ていくお金についてはどちらも出ていくわけですが、そういう点では結局、国営公園化になれば、今トイレとか駐車場とかつくったものは、また撤去するということになるわけです。ということはもったいないことにもなるわけです。ですので、国からお金が出ているのかといたら全く出ていません。その辺についてはどういう話し合いになっているのか、「巡る奈良」の計上の額と比べてみたら、もう1けた違います。平城宮跡につき込むお金は、どんということになっています。これでいいのかとも思いますので、お伺いしたいと思います。こんなところだったと思います。よろしくお願いします。

○稲村文化課長 未来のトップアーティスト育成事業についてお答えいたします。

奈良県には豊かな自然と情操をはぐくむ空間に恵まれているといった、全国でも有数の

特徴がございます。また、一方、奈良県には子どものときには音楽、ピアノ、バイオリンといった情操豊かな楽器演奏をお稽古されている人が多いというのも統計的に明らかな実態でございます。しかし、長じてこういう人が育ったときに、それら子どもたちを受けとめる場が用意されておらず、せっかく育った人材が県外に流出するという傾向がございました。そこで、これら背景から県として何か芸術をはぐくむ環境ができないかという思いのもと、未来のトップアーティスト育成事業を考えたわけでございます。この事業は一流の芸術家による指導、交流を通して、県内の小・中・高生にトップアーティストになりたいという高い志を持っていただくことを支援する事業でございます。来年度は弦楽器のジュニアオーケストラの編成を目指して進めていく所存でございます。具体的には、前大阪フィルハーモニーのコンサートマスターを指導者に迎え、一般公募により集まった生徒に対し文化会館で月3回程度の継続レッスン指導や橿原文化会館の発表会等の継続活動により技術のレベルアップを図り、奈良県立のジュニアオーケストラを育成したいというものでございます。

事業効果としましては、生徒それぞれの技術アップとさらなるチャレンジ精神の芽生えはもちろん、音楽というコミュニケーションツールによる集団活動によって次代を担う子どもたちの可能性を高め、青少年の健全育成に大きく貢献できるものと考えております。

さらに、奈良県立ジュニアオーケストラの活動が進むことにより、慰問演奏など社会貢献事業の輪が広がり、県民だれもが愛情を持ち支えていこうとするシンボリックな集団へ成長させていきたいと考えております。またご支援よろしく願いいたします。

○中島平城遷都1300年記念事業推進局企画課長 東アジア連携に関しまして、まず弥勒プロジェクトの平城京レポートについてご質問がございました。

お渡しできていないのが大変申しわけないのでございますが、平城京レポートはもともと日本、あるいは東アジアの国や地域、あるいはそこに暮らす人々が直面している課題について整理をして、それに対応するための視点や考え方や方法を提示した上で、よりよい未来を開くためのコンセプトを提言として提案しようというねらいでつくったものでございます。

この提案の部分の骨子は、基本的には今グローバル化が進む上で単一の大きなシナリオだけが動いていると、それに対して多様な東アジアの国々や地域はもうちょっと複合的なシナリオ構築が必要になってくるのではないかと。そのためにはさまざまな情報をネットワークして、これから未来をつくっていくための課題に対応できる情報として作り直し

ていくという場や機会が必要ではないかという提案を受けて、この弥勒プロジェクトの運営の実施計画もつくっていかうというものでございます。

その平城京レポートをいつ手元にお渡しすることができるかということでございますが、3つ目のご質問にございましたように間違いがかなり多く発見されておりまして、現在その修正作業に入っております。誤字脱字、それから固有名詞ですとか年号とか、そういう誤記もございましたし、あるいは報道でもありましたように、これ、薬師寺から法相宗を書いているのに薬師寺の名前が出てこないということもございました。直接行ってお話をお伺いしましたら、抗議するとか、それからけしからんとかというような言い方はしていないと、法相宗という宗派の名前が出てきたので、宗派が出てきた以上、その本山というところに頭が行って、宗派の本山ということであれば興福寺とともに薬師寺も書かれた方がいいのではないかとことを言ったまでですというお話でした。それも全体を読まれたわけではなくて、部分的に知り合いの記者からその部分を見せられたというか、こういうことになっているという指摘があって、それについて意見を述べましたということでございました。ただ、とはいうものの、部分的ではあっても、一部誤解を招くような表現になっていたかもしれませんので、表現をチェックするためにもう一度読み込み作業を進めております。できるだけ早くその作業を終わらして可能な限り、全体になるかどうかともかくとして概要版だけでもお届けできるように努力をしたいと思っております。

それから、そういう間違いが多数、誤字脱字レベルとはいえ出てきた原因でございますが、もともと平城京レポートは現在二百数十ページあるのですが、日本と東アジアの未来を考える委員会で検討された内容、それから寄せられた論文、それから、それらの委員の方々が書かれてきた著作などから提案にうまく結びつけられるものを再編集して、さらに新しい考え方を加えてつくっていかうという方針できたのですが、それをコンセプトを出す以上、その背景となるような東アジアの、例えば気候であるとか、あるいは歴史性であるとか、文化観、価値観、それから風土なども、あるいは東アジアの語源、アジアの語源というものについても説明した方がよりレポートがわかってもらいやすくなるのではないかとということで、外部にライターをかなり多く、書く人ですが、調査員も含めて外部にお願いをしたという、いわば制作体制を変更したということもあって、あとは時間的な問題で、編集に本来回るべき人間がライティング作業とか調査作業にまで手を伸ばしたということもありまして、第一次的に委託したところで多く誤記や記載ミスがあったということでございます。ただ、最終的にチェックすべきであったのはもちろん事務方である我々で

ございますので、我々もそれを見逃したという責任は強く感じております。原因は、これは言いわけかもしれませんが、国際会議のコーディネーターですとか、あるいは主催、共催、それから平城京レポートを発表しましたグランドフォーラムの開催準備に力を入れてチェックが不十分であったと反省いたしております。

今後どういう対応をするかということでございますが、委託しておりますJVもシンクタンクとプロの編集の機関でございます。大変じくじたる思いであると、大変残念であると、我々としても大変悔しいと、申しわけないということで、現在200部を配付いたしております。これはグランドフォーラムでの委員の方々、それから県庁内部での勉強の資料として配付した部分が大半でございますが、それ以外に残部として800部、これを一般配付しようと、皆さんに配付しようと思っていたわけでございますが、それを今止めています。その800部につきまして業者から無償で、返本してくれば交換するというところでございますので、今その方向で対応しているところでございます。

それから、対応の重要な部分になるかと思いますが、今後こういう再発防止をどうするかということも重要なことでございまして、これ以降も弥勒プロジェクトを推進する上でさまざまなメディアを通して情報発信をしていきたいと考えておりますが、その際に今回のようなミスが出ないように可能な限りチェックに時間をかけまして、再発の防止に努めていきたいと思っております。ただ、一部専門的な領域に入るような、そのファクトチェックみたいなものがなかなか内部でし切れないという場合には、一般の書籍化の場合が主ですが、専門的な校閲、校正にゆだねるということも一部検討はすべきと考えております。

それから、委員からレポートを発表する日にしか見ていないというお話でございますが、確かな日付は覚えておりませんが、10月末と、それから11月半ばか後半だったと思っておりますが、2回にわたって案文をそれぞれの委員に送付をしてチェックをしていただいております。チェックされた内容も事務局で受けまして、それを盛り込むような作業を進めてまいりました。発表する当日に簡単な説明でこれを承諾してくれというやり方で決めたものではございません。

それから、県民の目線で記述上の問題があれば変えるのかということでございますが、もちろんまだ場合によると表現誤りとかあるかもしれませんが、もちろんその場合には訂正しませんということではなくて、対応させていただきたいと思っております。

それから、東アジアジャーナルについての質問でございます。

東アジアジャーナル自体は「平成23年2月定例県議会提出予定議案」の5ページに書

かれておりますように、日本と東アジアの現状・課題・将来を定期的に情報発信するというところでございますが、そもそもその東アジアの現状・課題・将来の行く末などを把握しなければならないというのは、あくまで奈良県にとっても大きな課題だと思っているからでございます。現在、奈良県民含めて我々もそうですが、突きつけられている課題というのは奈良から内発した問題もちろんあると思いますが、グローバルな社会の中で非常に大きな、例えば地球環境問題であるとか不況の問題であるとか雇用の問題であるとか、奈良県から内発しているというよりは世界や日本の動きの中で県民にかかわってきている課題が多い。そういうことに対応するために世界の動き、日本の動き、それから東アジアの動きということを考えていくことが非常に重要なのではないかと考えております。これから地方政府としても奈良県がどういう役割を果たすかということを考える上でも、我々が今どういう国際的な環境の中で生きているのかということを考えるのは非常に重要ではないかという認識のもとに進めているものでございます。ただ、それを奈良県が1県だけで対応していくというのは大変困難ですので、そういう情報を分かち合って、国ですとか、あるいは内外の地方政府も同じような問題意識のもとに取り組みが進められるように情報を発信していこうという趣旨でございます。

どこが責任を持ってつくるのかということでございますが、実作業となると、もちろん委託ということになると思います。それはシンクタンクになるのか、あるいは書籍をつくることになるのか、あるいは編集の専門会社になるのかわかりませんが、実作業は委託ということになると思います。ただ、情報の提供先は専門的な研究機関であるとか、あるいは専門的な研究者であるとかという方々にさまざまな情報を寄せていただいて、それを1つの情報としてもう一度再編集してまとめていくという作業になっていくと思います。あくまで県が責任を持って編集、発行していくというたぐいのものであると考えております。以上でございます。

○森藤観光振興課長兼平城遷都1300年記念事業推進局総務課長 田中（美）委員のご質問にお答えさせていただきます。

平城宮跡内でのイベント展開と平城京歴史館についてのお尋ねでございます。

まず、イベントの方でございますけれども、昨年4月24日から11月7日の198日間、平城遷都1300年祭が開催され、363万人余りの方々が訪れられました平城宮跡を県といたしましても引き続き賑わいのある場としたいと考えているところでございます。国において復原されました大極殿院は平城遷都1300年祭終了後も一般開放されており、

また県が整備いたしました平城京歴史館も平成23年4月下旬の再オープンに向けて鋭意事務を進めているところでございます。平城宮跡内で予定しているイベントにつきましては、平成22年度にさまざまなイベントを平城遷都1300年記念事業協会において実施されました。それによって得られました経験でありますとかノウハウを生かして、来年度に向けましては地元奈良市をはじめNPOなどの民間団体とも連携し、官民協働の実行委員会を組織いたしまして魅力あるイベントの企画運営を行っていきたいと考えているところでございます。

まず、費用につきまして奈良市についてはどうなのかというご質問でしたけれども、県と奈良市の大きな負担割合につきましては2対1の割合を考えてございます。こういった昨年の賑わいを一過性のものとしないうちにも、昨年、平城遷都1300年記念事業協会で開催されました古代行事を中心としたイベントの費用対効果や集客力等を考慮いたしまして、冬季を除きます春、夏、秋の季節ごとに平城宮跡にふさわしい歴史をテーマとしたイベント、例えば春には、先ほど申し上げましたが、平城京歴史館が4月下旬にオープン予定でございます。そういったことから、この4月下旬から5月の初めにかけて遷都祭中心のイベントを3日間程度実施する予定で現在作業を進めております。また、夏には燈花会などの明かりのイベントを奈良公園で、なら燈花会が8月5日から14日まで実施され、大文字の送り火が15日実施されます。そういったことから、その後、夏のオフ対策として8月下旬に1週間程度の予定で平城京において、昨年好評でありました平城京の燈花会を実施したいと思っております。また、秋につきましては、10月上旬、下旬頃に古代行事の再現等を中心に、例えば蹴鞠でありますとか射礼などの古代行事の再現などを実施したいと考えております。この際、先ほどの歴史考証の話が出されましたけれども、歴史考証につきましては昨年、協会におきまして古代、特に日本古代史が専門の京都女子大学教授の瀧浪貞子先生に総合監修をお願いしたとお聞きしておりますので、そういったことも考慮に入れながら実施していきたいと思っております。それとまた、こうした歴史をテーマとしたイベントに加えまして、平城宮跡においては歴史空間を体感できるような仕掛けづくりを行ってまいりたいと考えております。

もう1点、平城京歴史館でございますけれども、平城京歴史館につきましても会場の閉幕後、原状復旧工事の関係等により、現在一時休館しているところでございますけれども、期間中非常に好評でありましたことから、4月下旬の再オープンを目指して現在準備を進めているところでございます。平城京歴史館運営の必要経費の積算に当たりましては、昨

年度平城遷都1300年記念事業協会での実績等を参考として運営スタッフのポスト数の精査等によりスリム化を図りまして、必要最小限の経費を計上したものでございます。

いずれにいたしましても、このイベントの実施、集客力のある、かつ費用対効果から考慮したイベントの実施でありますとか、こういった平城京歴史館の再開によりまして、昨年賑わった平城宮跡について一過性のものとせず、引き続き賑わいのある場所としたいと思っております。以上でございます。

○水本公園緑地課長 国営公園の現在の進捗と供用開始はいつごろになるかということと、トイレ、休憩所をなぜ県でするのかという以上3点だったと思いますけれども、まず1点目の現在の進捗ですけれども、今年度、国におかれましては第一次大極殿の建造物の復原整備のために有識者による検討委員会を立ち上げまして、これまで3回ほど開催されまして内庭広場の仕上げ方法とか築地回廊の伝統工法による復原範囲をどの範囲にするかといったことを現在検討されておりました、復原整備計画案を作成するための検討を今やっているところでございます。今後さらに検討委員会が議論を深められまして来年度復原整備計画が作成されまして、その後、具体の設計段階へ移行していくという段取りになってございます。それとあわせまして、メインエントランスになります公園南側の、朱雀門の南側のところに平城宮跡のガイダンスを行う展示施設を国で設置されるのですけれども、そちらの方の調査、設計も今年度から着手されると聞いております。

それと、供用開始の時期でございますけれども、前回の委員会でも説明させていただいたんですけれども、全部できるまでには道路、鉄道の移設もございますので、相当時間がかかるとお考えいただけます。ただし、公園としての効果を適切に発揮するという考えから、段階的な整備状況に応じまして順次開園されていくものと考えております。ただ、国営公園として開園されなくても、工事区域は別といたしまして、これまでどおり多くの来園者の方にオープンスペースとしてレクリエーションの場として利用していただけるものと考えております。

あと、トイレ、休憩所をなぜ県で設置するかということでございますけれども、まずトイレ、休憩所につきましては2カ所ございまして、まず1カ所はエントランス広場と申しまして、平城遷都1300年記念事業協会で駐車場のロータリーを設置していただいたのですけれども、それを規模を縮小してリニューアルして県で再利用するのですけれども、そこに設置するトイレ、休憩所がございまして、これは将来、県が朱雀大路の西側、今工場があるところですが、そこに交通ロータリーを設置しまして、そこにはトイレを設

置するのですけれども、それができるまでの間の暫定措置ということで県が今年度に設置するものでございますので、ここにつきましては県で設置するというところでございます。

あと、もう1カ所ですけれども、これは南門広場と申しまして、修景柵の南門東西路があったと思うのですけれども、その南西のところに設置するのですけれども、これは現在では国でいつトイレを整備するとか、そういったスケジュールとか計画は全くないと聞いております。ただし県といたしましては、平城遷都1300年祭終了後も平城宮跡を訪れる多くの来園者に早急に対応する必要があるという考えから県で設置するものでございます。以上でございます。

○田中（美）委員 質問した以上に答えていただいたところもあったりですけれども、まず最初のトップアーティスト育成支援事業のことですけれども、こういうものについてはいろんなジャンルで活躍している人が奈良の子どもたちに自分ができることはないだろうかという思いはお持ちだと思っております。そういういろんなジャンルの人たちにも、今回のように実際に事業として具体化していくという機会があればもっと広がるのではないかと思っておりますので、方向性としては、これはこれでやっていかれるとして、これからどういうふうにしていこうという方向性についてはどのように、先ほども触れられましたけれども、具体的にお考えでしょうか。一流アーティストということだけでなく、子どもたちにこんなワークショップをしてその芸術に直接触れてもらいたいとか、芸術家と県民とが交流する場所があちこちにあるとかいうのは本当に大事なことだと思います。ですので、例えばそういう届け出ですね、自分はこういうようなことで協力できるということを出したら県がホームページで一覧で紹介するとか、そうしたら受け手の側は、ああ、その人にアクセスすれば何とか相談に乗ってくれるとかいうようなシステムができないだろうかと思っております。

今回はこういうことで始まりましたけれども、ヨーロッパでは、歴史の古い町では芸術家がどんどん集まって、その芸術家と市民とが交流して、そこを舞台とした作品が生まれたりとかいうことで、いろいろ豊かなまちづくりが進められていると聞きますので、そのように奈良も芸術家が集まって芸術家と市民が触れ合って、そしてまた芸術家もそこで育てられていくということになったらうれしいと思うのです。そんな方向性もぜひ考えていただけたらと思いますが、要望に近いようなものでしたけれども、何かお考えがあればお聞かせいただきたいと思います。今回のように具体的になっていくのには何か制度のようなものもあれば、たまたま今回のことでいえば、その一流のアーティストが奈良にそうい

う提案をなさったと思うのですけれども、この提案をしたらこのように受けとめてこういうふうに具体化していく支援があるみたいな制度も検討していただけたらいいと、今回を参考にしてといたしますか、教訓にして、そういう方向に進んでいただけたらと思います。

それから、この平城京レポートですけれども、ぜひ時間的に不十分にしても制約があるにしても見てみたいと、読んでみたいと思いますので、正誤表もつけて見せていただけませんか。それはちょっと無理だと言われましたけれども、ぜひそれは資料として見せていただきたい、いただけなくても見せていただきたいと思いますので、その辺はどうでしょうか。そして訂正ということもあり得るということをお伺いしました。一度ぜひ読んでみたいと、できれば県民的に検討していただくというのが筋だろうと思います。

それで、この弥勒プロジェクトのこれからの行動についての計画がつくられていくということですが、これは案の形で示されるのでしょうか、案の形で示されるべきだと思いますので、その辺いかがお伺いしたいと思います。

平城宮跡のことについて、いろいろ先ほど伺いましたけれども、あそこをイベント会場として使っていくということはいかがなものなのかということについては慎重に平城宮跡の扱いとして検討が要ると思います。答弁と私の質問も長くなったので、もうこれ以上聞いたらと遠慮がありますので、それは主張しておきたいと思います。歴史公園といって整備していくということになったら、賑わい賑わいということになって値打ちが損なわれるというような心配もあるのではないかと感じておりましたし、それも指摘していたのですけれども、公園化する前にも奈良県としてでも、その賑わいということで十分な検討もなされたとはどうも思えないような感じで行事がスタートしていくという実態になっておりますので、ぜひ検討を十分にしていきたいと申し上げておきたいと思います。以上です。

○廣野文化観光局長兼平城遷都1300年記念事業推進局長 まず、文化の関係でご質問、ご要望も含めましてですけれども、当然未来のトップアーティスト育成ということで、まずは音楽関係を進めていきたいという思いを持っております。ただ、この未来のトップアーティストだけではなくに、先ほど稲村文化課長が申しましたように、奈良というのは多くの方々いろんな面で習い事とかいう面、ピアノの保有率なんかで見ていただいたら確かに環境としてはかかわっておられる方が多いのですけれども、実際の行動日数という面でいえば、全国的には奈良は少ないのです。ということは、やはり小さいときに習い事み

たいな形でやられている人は結構多いのかと見えるのですけれども、実際そこからさらにレベルアップしていくという過程が不足しているというのを今、文化のいろんな政策の中で勉強している部分で、そういう部分が見えてきました。そういう中で今、まずは音楽の部分でトップアーティスト育成事業をやっていこうとも思っています。そのような部分で、さらに芸術祭、先ほど影山地域振興部長から説明いたしましたけれども、芸術祭というような形の中でさらにそのレベルアップをしていくような、いろんなさまざまな団体がさらに参加できるような、ましてやそこで県内でもトップレベルの方々の、音楽だけではなくにいろんな芸術分野のトップの方々の出演とかをしていただいて、そこで見習っていただくような仕組みもさらに広げていきたいと思っておりますし、県内各地でいろんなサテライト会場ということで、来年は2～3会場しかできませんけれども、さらにいろんなところで県内各地でいろんな進展ができるような仕組みもつくっていきたくと思っています。

また、制度というお話もありましたけれども、新たな文化活動チャレンジ補助金ということでいろんな文化団体活動、わずかな補助金額ですけれども、いろんな団体の方々に公平な形での審査をして、いろんな会場の使用料程度の支援になるかもわかりませんが、そういったものの支援をすることによってさらにそういった輪を広げていきたいということを考えております。文化の面ではそういうことでございます。

あと、平城宮跡のイベントの会場についても、確かに賑わいだけを求めているのではなく、昨年平城宮跡に来られたという部分で、平城宮跡、もちろん大極殿、朱雀門がありますし、国の平城宮跡資料館、遺構展示館もございまして、そういったものも活用しながら歴史を体感できる仕組みという部分で、その中でイベントも位置づけていこうと思っていますし、当然、先ほど森藤観光振興課長が言いましたように、歴史展示の仕組みも平城宮跡でやっていきたいということで、そういうことについても取り組みを始めているところでございます。いろんな面でいろんな民間の方々等も含めて、平城宮跡を有意義に利用させていただきたいということで進めていきたいと考えているところでございます。

あと、東アジアの部分については、企画課長からご答弁させていただきます。

○中島平城遷都1300年記念事業推進局企画課長 平城京レポートでございますが、間違いを今、訂正中ということ、それから表現も現在一部見直し中ということを前提にいたしましてごらんいただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それから、弥勒プロジェクトの計画を案の段階で示すべきではないかということですが、弥勒プロジェクトも含めまして東アジアの連携、それから日本と東アジアの未

来を考える取り組み自体が県民生活にとってどういう意味や内容を持っているのかということ、きちんとお示ししなければならないということは痛感いたしておりますので、この計画にかかわらず東アジア連携にかかわるさまざまな事業は、方法はこれから検討するということになりますが、広く県民の皆様にわかっていただけるようにしていくつもりであります。以上でございます。

○中村副委員長 平城遷都1300年祭と奈良県観光のことについてお聞きをいたします。

平城遷都1300年祭は、人もお金も使って成功したということは否めないと思うのです。平城遷都1300年記念事業協会に人を送り込み、そして国、あるいは関西財界挙げてやった結果が2,140万人ということで、しかしながら、知事の県政の基本方針は工場立地、雇用の確保、あるいは医療、福祉の充実、そして観光立県が大きな柱だと思うのです。そうすると、この平城遷都1300年祭が奈良県観光のスタートラインだと思うのです。そういたしますと、今も議論が出たわけでございますが、端的に申し上げまして、中南和地域がここにも明記しているのです、特定月に増加したものは、平均では例年並みですと、桜井市を含めて、中南和地域の橿原神宮、飛鳥、ほとんどの地区では列車の観光客も減員ということで。そういうことで、この平城遷都1300年祭の総括をどのように考えておられるのか、端的に言いましたら、北が栄えて中南和が疲弊をした結果だと。今年度の予算案を見ましても、平城宮跡一つを取ってもいろんな事業、燈花会とか奈良公園の整備、平城宮跡の整備等、奈良市内の奈良公園を含む平城宮跡に観光の事業が集中している。確かに南部振興課も新設されて、空き家の利用とかJALとの提携、いろいろされているわけですが、これからそうすると奈良県観光をどういう形で、そして具体的にどういうプロジェクトでもって平成22年度の2,140万人を上回る観光客誘致をどのように考えておられるのか。そのためにはまずホテルの数です、宿泊施設が非常に少ない。だから今回の場合も外国人観光客の宿泊は少なかった。そして一般の観光客も京都府や大阪府や兵庫県にとられた。しかしながら知事の目玉であるホテル誘致は、今年度の予算を見ても文化財の発掘と産業廃棄物の掘削になっているわけです。こんなの、産業廃棄物はもともとからわかっている話でしょう。そこら辺にもこの予算を使って、予算が非常にアンバランスだと思っているわけです。

そこで、まず質問の第1点は、これからの奈良県の3,500万人の大体観光客です。今後どのような形でふやしていったどれくらいの観光客を奈良に誘致をされようとしておられるのか。

それと第2点目は、ホテル誘致や宿泊所の誘致施設の2,500万人の誘致問題もなかなかままならない、借り手がないわけです。泊まるところがなければ、今までの宿泊強化でなくて素通りの観光になるわけです。素通りになると、そこで人が滞留してお金を使って、あるいはまた土地を持っておられる人のビジネスチャンスがしぼむわけです。だから、そこら辺に対して宿泊施設の融資制度も含めて、ホテル誘致は一体どうなっているのか、どういうふうにして仕掛けをしていこうかということが第2点です。

そこで一番3点目の聞きたいことは、奈良の歴史展示構想に基づく奈良県観光をやっけいこうと、奈良の歴史展示とは一体何なのか、何を展示しようとしているのか、奈良の歴史展示。委員会をつくって検討していこうと言っているけれども、そこで今年度予算と来年度予算にかけて記紀・万葉を世に出していこうとしているわけです。記紀・万葉の何を世に出していくのか、この歴史展示の基本的な内容は記紀・万葉でもいいと思うのです。その何を発信しようとしているのか、奈良の歴史は一体何なのかということをお聞きしたいわけです。

さらに言えば、平城遷都1300年祭で大極殿は、1300年前に奈良に都があったのだと認識をしてもらったわけです。だから2,140万人も含めてリピーターを奈良に呼び込まないといけないわけです。そうすると奈良の歴史は奈良時代で終わるわけではないのです、1300年前ぐらいは歴史が浅いのです。そうしますと、これからの奈良の観光の歴史そのものは、私の考えですよ、これは日本人のルーツに訴える日本生成の歴史そのものなのです。つまり飛鳥、あるいはそれ以前に先行する纏向遺跡なのです。ヤマト王権のこれを世に出すこと、これが奈良の歴史展示の主たる内容になることによって日本人の魂を揺さぶり、神社仏閣以外の日本の歴史に思いを寄せることが万葉集の万葉文化館の建設の意味でもあったわけです。

それともう一つは、この古事記と日本書紀には神代の時代から天武天皇の時代までの神話があるわけです。古事記と日本書紀と神話があるのです、天武天皇、神武天皇。この歴史をどのように認識をして、記紀・万葉を世に出すためにはこの神話をどのように扱うのか、このことについて何か思いをいたすところがあればお答え願いたいわけです。

○廣野文化観光局長兼平城遷都1300年記念事業推進局長 平城遷都1300年祭後の今後の観光についてどのように考えているかというお問い合わせがあったと思います。

先ほど委員がおっしゃっていましたように、平城遷都1300年祭がスタートということで、我々もこの賑わいを継続してやっていきたいという思いでやっています。今回、平

城遷都1300年祭に多くの方々がお越しいただいたということの中で、奈良の価値というのは歴史そのものということが実感されたということで、その価値を今後とも県外の方々にも発信し続けていきたいということを考えています。そういう中で具体的な観光戦略を考えているわけですが、まず、ことし県内各地でいろんな周遊型の観光地としての魅力を高めるということで、「巡る奈良」をテーマに周遊型観光地としての魅力を高めるという、まず1点の基本戦略を考えております。また、オフシーズンの問題がございます。通年にぎわうような観光地を目指していきたいということを考えています。先ほど特に委員がおっしゃっていましたが中南和も含めまして本当に奈良については奥深い魅力があるということで、そういったものを効果的にさらに発信していきたいということを中心にして、基本的な戦略として今後、ことし以降の部分についてやっていきたいということで、既に目標としては4,000万人以上ということで、昨年が3,450万人ということですが、4,000万人以上の部分を目指してさらにそういった戦略を具体化していきたいという思いで今進めております。中南和についても同様の形の中で、特に中南和地域において弱点と言われます広報力の問題とか、そういった面を勘案しながら、そういう対応について予算を計上させていただいているという状況でございます。あと、ホテルの方とかは、また別途お願いいたします。

○森田企業立地推進課長 中村委員からの宿泊施設の整備についてのこれからの考え方、取り組み内容についてのお尋ねがございます。

まず、宿泊施設に関しまして県全体につきましては、委員ご指摘のとおり融資制度を県の制度融資と2%の利子補給の制度を用意しております。この制度は既に融資実行を制度創設以来18年くらいですから数年になりますが16件ほど実績がございます。この特徴は中南和を含めバランスよく、南は十津川村から中南和を含めバランスよくご利用いただいております。改装であるとか新規創業も含めまして、そういう形で実績を着実に上げていっているところでございます。特に中南和に関しましては市町村との連携で宿泊施設誘致の適地の情報を、数はそれほど多くございませんが、それでも少しずつちょうだいしております。橿原市から南ですね、橿原市、桜井市、明日香村、大体そのあたりを中心に適地をいただいております。我々としましては奈良市の県営プールに限らず、その中南和の適地に関してもその誘致活動を県としても市町村と連携しながら進めていく所存でございます。その際に、先ほどの融資制度と連動しての取り組みとして考えております。

それとあわせて、昨年9月の補正でささやかな予算ですが、そういう中南和を中心とし

てホテル誘致の売り込み活動、営業活動用のイメージ作成の予算もいただいておりますので、年度内にそのあたりの成果もきちっと確保いたしまして、さらに中南和も含めた誘致活動の方は力を入れていきたいと考えております。

あと最後に、県営プールに関しましては、これは引き続き個別交渉型の誘致を現在も進めております。今回、提出予定議案としてご説明申し上げた文化財発掘に関しては、基本的にあちらの部分は県有地でございますので、今の経済状況で売却ということは現実的ではありませんので、借地でということをご想定しておりますので、県で文化財調査だけは先行していこうということでございます。

それと、土壌汚染の方は、これはあくまでも念のための調査、人の集まる施設になりますので念のための調査ということで考えておりますので、また結果等をご報告申し上げたいと思います。以上でございます。

○高野地域づくり支援課長 歴史展示の重要性をどう考えているかということかと思えますけれども、歴史展示で奈良の歴史でどこが重要なのかということで、我々3つ、国家の基盤が形成された地であること、それから仏教が伝来した地であること、それから東アジアとの交流が盛んであった地であるということ、この3点を掲げて歴史展示というのを進めていこうと考えております。これはまさに1300年前にこういうことが起こった地であるということで、昨年の平城遷都1300年祭もこういったことをテーマに、そういうことに感謝するというところで展開してきたものと理解しておりまして、これを今後も展示していくということも県の責務だと考えて進めておるところでございます。

それで、取り組みでございますけれども、まず、委員もおっしゃいました飛鳥のそういった1300年前の国家の基礎ができた地ということでスタートいたしまして、万葉文化館を中心としましてその歴史展示を進めていく方法というのを今具体化していこうとしているところでございます。引き続きまして、奈良市のエリアも検討の対象にしていっておるところです。引き続きまして、それを県全体の歴史展示ということで進めていかなければならないという計画で考えておるところでして、委員お述べの、さらにその前にさかのぼった神話の話、それこそ記紀の時代です、そちらの方までどう広げていくのかということも含めまして今後は検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○中村副委員長 ホテルにつきましては18軒ということで、現実にはほとんど外国人が泊まれるホテル、例えば日本で言ったら1万円以下ですね、韓国や中国人がね、そういう

ホテルは1軒も建っていないわけです。中南和を見ても北和に来て本格的というか、中ぐらゐのホテルも全然建っていないわけです。それだけ市場価値がありやなしや、奈良県の経済基盤の問題もあると思うのですけれども、そこら辺のところをどのようにアタックをして少しでも宿泊施設を、きょう現在も全国最下位なのですよ、ホテルの数は。そういうことも含めて、鋭意努力をしていただきたいということだけ申し伝えておきます。

それで、今申し上げましたように、1300年以前の歴史に思いをはせる日本人のルーツに着目をするというふうにお聞きをしたわけですが、これ大事なことなのです、これは歴史教育の問題とかいろんなことを含めて大事なことなのです。そうすると、今の観光振興の話の中で神社仏閣をめぐるのもさることながら、我々日本人が世界に誇れる日本人のルーツに到着する大きな歴史的な遺産が畿内説、九州説で考古学の論争になっておるこの纏向遺跡、この大きな国民の心を揺さぶる、畿内説、九州説、意見相半ばしているわけなのです。そこで、この遺跡を映像だけにとどめるのではなくて、それを復原するということです。物事には歴史、それと何か象徴的なものがあって、今回の場合、平城遷都1300年祭の場合、何と申しますか、まさにせんたくんです。人気の悪かったせんたくんが途中からなかなか頑張って、奈良といえはせんたくんと、これはけがの功名です。だから、この歴史展示をする最大のもの何かと、復原作用だと思ふのです。そうすると、今まで日本で吉野ヶ里遺跡はやっているわけです、そうしたら纏向遺跡を復原して、これを一つの情報発信にするということも大事なことなのです。そうすると文化財保存課もそうなのです、今の補助金制度で、微々たるものですよ、発掘費用たるもの。これこそ、例えば日本財団とかと提携をして、大事な国民にかかわる重要な歴史を展示する、そのあかしとして発掘予算をやはり飛躍的に伸ばすことによって奈良県の観光を後押しするという発想も大事だと思ふのです。きょうはもう時間がございませんのでここで置きますが、このことについて基本的な立場を述べていただいて終わります。

○高野地域づくり支援課長 復原ということもございましたけれども、基本的に人に来ていただいて、この日本人のルーツを知っていただくということをいかに展示していくかというのが歴史展示のやり方だと思っております。ただ、一方で復原していくといったときに、それが学術的に本当に正しいことなのか、まさに畿内説かどうかというところもまだ今、専門家が戦わせているところでして、その辺の表現の仕方というところは一定の慎重なやり方をしていけないといけないのかなと、その辺をうまくバランスをとりながら、そのルーツを知っていただくという方法を考えていくべきかなと私自身は考えております。

以上です。

○中村副委員長 あのね、バランスをとりながらということは、平城遷都1300年祭をやったのは、柿本知事と違って、現知事の鉄の意志によってこういうものを催し、そして国と交渉をし、平城宮跡に特定してやれたわけです。本当に皆さんが観光振興に力を尽くそうと、細かく言えば全部チェックしてあるのです、ほとんど奈良市ですよ、観光の予算措置はほとんど奈良市。それも奈良公園とか平城宮跡、一部のところばかりです。南部振興課に4,800万円の予算がついた、秘宝展を吉野でやったりしていた。しかし現実には中南和にほとんど予算がついていないわけです。このことは、やはり奈良だけではもたないのです。交通事情も道路事情も悪いわけで、広い中南和に行けばもっと人の流れもよくなるのです。だから、もう言いませんけれども、北ばかりに、特にそうですよ、さっきも田中(美)委員が言われたように、平城宮跡、これ国営公園で、あれは飛鳥と一緒に国の予算でやると言っているのに、県費の支出で4億5,000万円プラスをずっとしているわけです、県費予算ね。これ本来、国営公園だったら県費で一銭も出さなくていいのです。それ、県はずるずる出しているのが実態ではないですか。そういうこと一つにしても、それだけ4億円、5億円、9億円の金を出すのだったらもっと、そこで最後、直産物、農産物の直売所の耳成高校跡地の観光案内所ですよ。これね、民活なのです。この民活が、企業は採算性ですよ、観光の情報発信は不採算部門ですよ、不採算部門は公がもつべき役割の仕事ですよ。それを民活で50平方メートル以上の建物を考えなさいと、そうしたら応募する企業は採算を見てもうけを考えないといけないのなら単なるレストランつきの、奈良県の観光を本格的に情報発信するそんなものになるはずがないのです。だから今からでも遅くないです、業者に話ししている観光案内所のプランだけは外して、本格的に県費を支出して上物ぐらいいは県がつくるべきだというのが私の意見ですから、これは要望にしておきます。観光案内所は民間に任せる話ではないと。

以上です。

○岩城委員 人は歴史に何を求めるのかということがわかれば、奈良県の観光というのは、今後の大変厳しい時代を迎える奈良県の地域の経済を支える一つの大きな柱になるのではないかと、今、諸先輩方が一生懸命それぞれの地域のことについても訴えられているところだというふうに聞かせてもらっていたのですが、新たな提案や報告も今聞かせていただきましたけれども、お聞きしていて、それぞれの担当の部署が真摯に一生懸命やっただけ知っているのを知っているのですよ、本当に感謝申し上げたいし敬意を表した

いと日ごろ思っているのですけれども、ばらばら感がするのです、一つは。それを何とか取りまとめていこうということでの取り組みも、例えば「巡る奈良」というタイトルで追求をされようとしているのかなと思いますし、これからも検討が進んでいくという報告もあったのですが、不勉強で不認識で申しわけないですが、観光に関する基本戦術や基本戦略、基本計画みたいなものはありましたか。あったかなかったかだけ教えてください。

それから、東アジアについては意見の異なることもあるとは思いますが、心配していますのは、日本と東アジアというのは、この100年間でさまざまなことがあって、そういう歴史的な視点に立たないと、奈良が積極的にかかわっていくということについて歴史的視点をきちんと持って、自分たちの立場を明確にしないと心配なのです。そのことはあえてつけ加えておきたいと思います。

また、4月の選挙で当選してきましたら、具体的に今後ともさまざまなご提案も申し上げてまいりたいと思いますが、しかし一方で、非常に期待もしています。物づくりというのはイギリスの産業革命に始まって、安い労働力を求めてイギリス、ドイツ、アメリカ、日本で、今、中国、インド、そういう地域に安い労働力を求めて移動するのですけれども、ドイツだけ成功しているのです、物づくり産業が。なぜだと言ったら、ヨーロッパの域内経済でドイツが主要な場所を占めているというのが最近、経済の専門家からよく言われるようになって、だから日本もこれから太平洋の向こうのアメリカばかり見ていましたけれども、アジアやと、こういうことで東アジアとの連携を文化的な面からも追求する位置に資格として奈良があるというのは、これは大きな可能性だと、そういう期待を申し上げているのです。ぜひ東アジアとの今後の連携については、単に文化だけでも何でもない、奈良県の将来をかけてやるぐらいのその決意でぜひお願いしたいとも思うところです。

学研高山地区第2工区の話が出ましたので、一つだけ今後の総括のために申し上げておきたいと思いますが、県会議員になって以来、学研高山、もうやめたらどうかと大分相当申し上げてまいりました。間違ったらその時点で修正を施すのが行政や政治家の責任だと、経済の拡大なんてするのですかとずっと嫌がられてもこの16年間申し上げてきたのですが、さて、具体的に損失をこうむる人というのは出るのですか、粒谷委員は地元の議員としてこのことを一生懸命訴えられてきて、どなたかが損失をこうむられるとするならば県の責任というのは非常に重いものがあるのではないですか。先行きの展望について学研高山地区第2工区、相当心配した、過去ですね、意見の表明も議会ではあったということもぜひ重く受けとめていただいて今後どうしていくのか。どうですか、今後その展望のない

ような開発は厳に慎むべきだというような記念講演でもしたらどうですか、そういう点を申し上げておきたいと思います。

平城京歴史館が好評でございました。好評だったのですが2つお尋ねしたいと思うのですが、賑わいというのにも要るのだと思うのです。人が集まる場所には賑わいが要るのだろう、駐車場やトイレの施設を残していただく努力をしていただいたようですが、飲食物の提供みたいな施設は残るのですか。人が集まるところで要りますよ、必要ですよ、だから集まったのですよ、だから賑わいがあったのですよ。この視点を欠くと、来ていただいた方に訴えるべき内容もなかなか届かない、人が集まらないという結果につながっていくだろうと思うのです。努力はされてきたけれども限界があったことについても認識はしているのですが、その点についてはいかがですか、そういう場所、スペース、サービスは残りますか。

次に、阿倍仲麻呂については見せていただいて感動しましたが、あの話だけではいきません、ずっともちません。その準備もしていただいていると思うのですが、さっき弘法大師の話について、中南和の活性化だということで聞かせていただきました。弘法大師が歩いたとされる吉野山金峯山寺、ここも歩いているのです、弘法大師ね。ここですよ、ここを歩いて東大寺に通って、入唐される前には相当な学問を修められた上で唐に行かれたので成功をおさめられたようですが、讃岐の善通寺、佐伯の真魚というのが出生されたときのお名前であるようでありまして、佐伯氏というのは奈良時代から都に出て相当な地位を占められていたようで、この佐伯氏の応援があって相当多量の砂金を持って唐に渡られて、密教に必要なさまざまな仏具も整えられて当時の奈良に戻ってこられたということですが、この真言宗というのは後々、新義真言宗というのが起こって、これの本山が根来寺で、根来寺というのはなぜか種子島から鉄砲を持って帰ってるのです、堺の商人とともに。そう考えますと、この新義真言宗というのは長谷寺も室生寺も新義真言宗なのです。何を申し上げたいかということ、奈良の歴史というのはそういうふうに1300年どころかという古代の話がありましたが、相当な時間の流れの中で相当さまざまなつながりがあるということで、例えば弘法大師をテーマとされるとするならば、この歴史館で相当できますよ。大師信仰も含めて一体何であったのかというようなことも、ぜひ奈良のことを研究をしてそれを広める、日本の歴史、文化を広める拠点として奈良がそういうことに真剣に取り組むとするならば、奈良の地域経済、あるいは雇用ということで、拠点が奈良の北部であっても中南和の雇用をも吸収する拠点に県内どこでもなり得ると考えます。ぜひ今後の平城遷

都1300年祭、本当にこれからがスタートだというご意見、先ほどありましたが、なぜ今までスタートしていなかったが不思議でして、ぜひきちんとした平城遷都1300年祭の総括をされるとともに今後の方針を打ち出させていただくようお願いを申し上げて、2、3点質問させていただきましたが、そのことのお答えだけいただきたいと思います。

○廣野文化観光局長兼平城遷都1300年記念事業推進局長 1点目に、観光戦略のお話がありました。

過去に、平成17年だと思っておりますけれども、観光戦略をつくって、平成23年に一応切れるということで、そこを含めて今回、平城遷都1300年祭でいろんな成功したというその要因等を含めまして、これらの成功体験を今後の観光政策に生かしていくということの中で、ポスト1300年観光戦略というのを今考えておりまして、それを3月中を目途に取りまとめていきたいと、計画期間は3年という形で考えています。先ほど観光政策そのものがばらばらというお話もございました。そういう中で、当然文化観光局だけではないに關係部局、幅広くそのポスト1300年観光戦略の中に組み込みまして、そういった形で連携しながら事業を進めていきたいと考えております。あと、残余についてはまた、担当課長からご答弁させていただきたいと思っております。

○森藤観光振興課長兼平城遷都1300年記念事業推進局総務課長 委員から飲食物の提供の可能な施設というご質問がありました。

平城宮跡はご承知のとおり国の特別史跡ということで、恒久的な飲食施設の設置というのはなかなか難しゅうございます。しかし、イベントを実施するということで春、夏、秋のそれぞれのイベントの際には往時の市場を再現するような形での飲食店の設置、いわゆる東市、西市、東の市、西の市という名称で飲食可能な施設を設置する予定といたしております。以上でございます。

○中島平城遷都1300年記念事業推進局企画課長 東アジアの連携につきましてご指摘をいただきました。

100年、200年前の歴史的な視点も非常に重要だということと同時に、自分の立ち位置をしっかりと見詰めてやっていくようにということだったと思っております。まさにそういう視点で、100年前、200年前のアジアとの關係というのは奈良があまりイニシアチブを持って言えることはないのかもしれませんが、1300年、あるいはそれ以上前のアジアとの關係ということについては積極的に奈良が発信していける立場にあるものと思っております。

それから、東アジアとの関係を文化だけでなくという指摘もございました。

お示しもしていない段階で平城京レポートのことをお話するのは気が引けるのですが、ここでも文化だけではなくて伝統的な産業、技、それから技術革新の問題、環境工学の視点などもコンセプトとして提示しているところがございます。

それから、東アジアとの関係を奈良県政の主要なものにとらえて力強く進めていけという指摘もございました。

おっしゃるとおりでございます。我々もグローバルな社会で中央政府の役割をどう考えていくかということは、もちろん国の責任と役割を考えていくのと同時に考えていかなければならない問題なので、とても慎重に検討していかなければならないとは思いますが、そういう重要で困難な課題であるだけに、まず、できるだけ早く課題としてとらえて、それを目の前に置いて少しずつでも課題を取り崩していけるようなやり方で進めていきたいと考えております。以上でございます。

○岩城委員 ありがとうございます。質問を終わります。

○神田委員長 ほかにありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

ほかになければ、これで質疑を終わります。

なお、当委員会所管事項に係る議案が追加提出される場合には、当委員会を定例会中の3月3日木曜日の午前に再度開催させていただくこととなりますので、あらかじめご了承願います。当日は追加提出議案に限っての審査となりますので、当委員会を10時30分から開催することとしてよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

それでは、そうさせていただきます。

では、これをもって本日の委員会を終わります。ご苦労さま。